

GHここから 令和7年度 地域連携推進会議

日時： 令和 8年 1月 14日（水） 10：30 ～ 12：00

場所：グループホームここから ユニットときわ

参加者：

T様（民生委員）・O様（後見人）・A様（後見人補佐）・F様（烏山地区障害保健福祉課）
S様（民生委員）・K様（民生委員、世田谷ボランティアセンター）W様（グループホーム利用者）・施設長・管理者・世話人（GH職員）

司会：管理者

議事録：世話人

議題

1. 開会挨拶

地域連携推進会議の趣旨の説明

地域連携推進会議とは、施設を利用している方が、地域の中で安心して暮らし続けられるように、施設と地域の皆さまと一緒に話し合うための会議です。障害福祉というと専門的に聞こえますが、基本はとてもシンプルで、「誰もが地域で安心して暮らせるように支え合う」という考え方に基づいています。

まず、この会議では、施設がどのような支援を行っているのか、利用者の方がどのような生活を送っているのかを地域の皆さまに知っていただきます。施設の中だけでは気づきにくいことも、地域の方の視点が入ることで改善のヒントが見つかり、より良い支援につながります。

また、地域の皆さまから「こんな関わり方ができるのではないか」「地域としてこういう協力ができる」など、率直なご意見をいただくことも大切です。そうした意見を取り入れることで、利用者の方が地域の一員として自然に受け入れられ、安心して暮らせる環境づくりが進んでいきます。

さらに、この会議は、利用者本人やご家族の声を大切にすることもあります。

「その人らしい生活ができていますか」

「困っていることはないか」

「権利がきちんと守られているか」

といった点を、地域の方々と一緒に確認していきます。外部の目が入ることで、支援が一方的にならず、利用者の思いが尊重される仕組みが保たれます。

そして、この地域連携推進会議は 令和7年度からすべての事業所で開催が義務化されました。

年に1回以上、地域とつながり、意見を交わし、支援の質を高めていくことが求められ

ています。これは、障害のある方が地域で安心して暮らし続けられる社会をつくるための重要な取り組みです。

地域の理解が深まることで、利用者の方が地域の中で自然に受け入れられ、孤立することなく、安心して生活できるようになります。施設にとっても、地域の皆さまの協力やご意見は大きな力になります。

本日の会議も、皆さまからのご意見をいただきながら、より良い地域づくりと施設運営につなげていく貴重な機会です。どうぞ遠慮なく、感じたことや気づいたことをお聞かせいただければ幸いです。

2. GH報告

○GHここから説明（施設見学）

ここからは平成26年12月に開所し、昨年の12月で11年目を迎えました。

これまで多くの方々の生活を支える場として、利用者の皆さまが安心して暮らせる環境づくりに取り組んできました。

建物は2階と3階に分かれており、2階には男性ホーム「ときわ」、3階には女性ホーム「そら」があります。

どちらも定員は5名ずつで、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、利用者の皆さまが自分らしい生活を送れるよう支援しています。

グループホームにはいくつかの種類がありますが、ここからは「滞在型」のホームです。滞在型とは、利用期限に特に制限がなく、長く住み続けることができるタイプのホームです。

生活の基盤を整えたい方や、落ち着いた環境で自分のペースを大切にしたい方にとって、安心して暮らせる場所となっています。

また、女性ホーム「そら」には「体験室」というお部屋が一床併設されています。この体験室は世田谷区独自のサービスで、最長半年間利用することができます。一人暮らしの練習をしてみたい方や、次のステップに向けて準備をしたい方など、比較的自立度の高い方にご利用いただいています。

実際に生活してみることで、自分に合った生活リズムや課題を見つけることができ、将来の選択肢を広げる大切な機会となっています。

現在、ここからは20代から50代までの男女10名の方が入居されています。年齢も背景もさまざまですが、それぞれが自分のペースで生活し、時には助け合いながら、穏やかな日常を過ごされています。

スタッフも、利用者の皆さまが安心して暮らせるよう、日々の生活支援や相談支援を行っています。

参加者からの質問

・体験室は中学生でも使えますか？

→A 基本的には、18歳以上の利用を考えています。また、グループホーム職員は児童の専門性が薄く、適切な支援等に不安があるので対応は現状難しい状況です。

・グループホームを長く利用したい方への配慮や地域での暮らしをどう支えているのか？

A→地域に恵まれていることもあり、基本的に地域での生活は優しく見守っていただいていることが多いです。過去にトラブルがあった際はもちろん職員が謝罪をおこなっていますが、大きなトラブルは起きていません。

・男性より、女性利用者の方が早めに退去するのですか？

A→特にそういうわけではありませんが、女性利用者の高齢化等が重なり過去に2名ほど退去されています。現在は満床となっています。

〈利用者の日常生活の様子について〉

参加者である、Wさんにグループホームでの生活について質問を交えながら話していただいた。

また、去年のグループホームイベントの様子をパワーポイントで視聴してもらった。

参加者からの質問

・もしWさんを見かけたら声をかけてもいいですか？他にも動画で見た方も声をかけてもいいですか？

→A、Wさん「声をかけてくれたら、うれしいです」

他の方に関しては、声をかけられるとびっくりしてしまう方がいるので、すこし気にかけてくれるだけでもうれしいことを伝えました。

○事故、ヒヤリハットの報告

令和7年度12月現在では事故が1件・ヒヤリハットが15件上がっています。

事故の内容は「服薬忘れ」でした。

服薬の忘れに気づいた職員が常勤職員へ報告をし、常勤職員が管理者へ情報が伝えられました。

管理者の指示を受けた職員は、すぐに薬局へ連絡し、対応方法を確認したうえで適切に対応しました。

再発防止として、臨時薬が処方された際に確実に気付けるよう、服薬アラームを導入し、活用していくことになりました。

一方、ヒヤリハット報告書には、転倒や食器棚の施錠忘れ等、様々な内容がありました。

その中でも特に印象に残っているのが、利用者居室の冷蔵庫のコンセントが抜けていたという出来事です。購入した食品と一緒に冷蔵庫へ入れようとした際、冷えていないことに気づき、確認するとコンセントが抜けていました。その利用者の方は、困ったことがあれば職員に伝えられる方なのですが、冷えていないこと自体に気づいておらず、「困ったこと」と認識されていなかったようです。

居室の掃除確認は定期的に行っていましたが、こうした細かい部分にも目を向けていく必要があると、改めて感じさせられる出来事でした。

これからもヒヤリハットを積極的に報告し、職員全員で情報を共有しながら、支援の質をさらに高めていければと思っています。

参加者からの質問

・なし

○職員研修について

なごみ福祉会ここからでは、利用者の皆さまが安心して過ごせる環境をつくるために、職員一人ひとりが学び続けることを大切にしています。内部研修は年に2回ほど実施しており、日々の支援を振り返りながら、「もっと良くできることはないか」「新しい視点はないか」といったことを職員同士で共有する時間になっています。

その中でも、虐待防止研修は毎年必ず全職員を対象に行っています。利用者の方々の尊厳を守り、安心して生活していただくために欠かせない研修であり、毎年しっかりと時間をとって取り組んでいます。今年度はそれに加えて、感染症に関する研修も行いました。感染症の知識は、利用者の健康を守るうえでとても重要で、改めて基本を見直す良い機会となりました。

また、内部だけでなく、世田谷区福祉人材育成・研修センターが実施している外部研修にも積極的に参加しています。外部の研修では、他施設の取り組みや専門的な知識に触れることができ、新しい気づきや学びを持ち帰ることができます。こうした外部の視点を取り入れることで、支援の幅が広がり、より柔軟で質の高い支援につながっています。

研修に参加することで得た知識や気づきは、日々の支援の中で少しずつ形になっていきます。利用者の皆さまの「安心できる暮らし」や「その人らしい生活」を支えるために、私たち職員も学び続ける姿勢を大切にしています。

これからも、研修を通して得た学びをしっかりと活かしながら、職員全員で支援の質を高めたいよう努めてまいります。

参加者からの質問

・なし

○防災関係について

各フロアに備蓄品（食べ物や発電機等）を用意している。また、年二回の避難訓練（利用者も参加する場合もある）を実施している。

参加者からの質問

- ・その他の防火対策等はないかありますか？

A→フロアの一部には鉄の扉になっており、対火性や炎が広がることを防ぐようになっています。他にも避難訓練だけでなく、発電機の使用練習などもおこなっていく予定です。利用者避難時には設置されている、避難袋では避難が難しいので毛布等を使用して避難を想定しています。また、利用者一人ひとりの緊急時フローチャートの作成をおこなっています。（緊急時にどのように連絡を取るか等）

〈その他〉

①グループホーム以外に関する質問

- ・緊急利用をするにはどうすればいいんですか？

A→基本的に「緊急時バックアップセンター」を通して問い合わせを貰っていることが多いです。すぐに利用をしなくても緊急時バックアップセンターに登録や短期入所に契約・利用をしておくスムーズに利用できるのも事前の準備も大事だと思います。

・目の前の団地が建て壊しになって新しい建物が建つけど、ここからは先に立っているんだから、無理に新しい住民に気を使いすぎなくてもいいんじゃないでしょうか。

A→現在、新しい建物の建築については不透明なところが多く、説明会もまだしっかりと進んでいない状態です。解体作業も5月ごろ予定とだいぶ先になっており、毎年おこなっているお祭り等のイベントもできないかもしれません。

以前、ここからが建てられた時は反対運動もあったので、地域の一員として気にかけてもらえるようにしていきたいと思います。

以上